

# 奈良県吉野郡川上村西河方言における 身体感覚を表すオノマトペ

岸江信介・中井精一

はじめに

1. 調査対象地： 川上村西河は、奈良県の面積の3分の2を占める山岳地帯である吉野郡の東北部、紀伊山脈に源を発する二つの主なる河川の一つ、吉野川流域の上流域の河岸段丘上に位置する。国道169号線（旧東熊野街道〔吉野～新宮〕）沿いにある。現在この集落の戸数は95戸、人口は313人で、人々は主に林業関係の仕事に従事している。
2. 調査年月日： 平成3年12月1日午後3時～午後5時
3. 話者： 紺谷よしこ氏（昭和4年5月3日生）
4. 調査者・調査場所： 中井精一、話者自宅
5. 調査方法等： 調査票に基づく質問法で行った。

## I 全身の感覚

1-1. 快不快 「ス」ット、「サ」ッパリ

【説明】

「ス」ットスルが快い場合に用いられることが多い。

○ 「フ」ロ イ」ッテ 「ス」ット シテ 「キモチ」 エ「ー」ワ。

（風呂に入って、すっとして気持ちがいいよ。）

1-2. 寒さ 「ガ」タガタ、ガタガタ「ブ」ルイ、「ガ」チガチ、ガチガチ「ブ」ルイ、「ゾー」ット、「ドー」ット

【説明】

オノマトペである「ガ」タガタや「ガ」チガチからガタガタ「ブ」ルイ、ガチガチ「ブ」ルイという表現が造られている。

○ キョ「ー」ワ サ「ム」ーテ モー ガタガタ「ブ」ルイ 「スル ナ」ー。

（今日は寒くて、もう、ガタガタ震いをするねえ。）

共通語「ぞっとする」に対応する形式では、ザ行音とダ行音の混同傾向がある。但し、ここでは、両者が観察された。

○ 「カゼ ヒ」ーテ ドー」ット スル 「ナ」ー。

（風邪をひいて、ぞっと〔寒けが〕するねえ。）

- 「カゼ ヒキソ ーナ ワ。「ゾー ー ット セナカカラ 「サ ー  
ブイ 「ヨ ー。

(風邪をひきそうだよ。ぞっと背中から寒いよ。)

1-3 熱さ

「カ ー ッカ

【説明】

共通語「かっかする」という形式に対応するのは、「カ ー ッカトスル」という表現である。

- 「サケ ー ノンダ ー ンデ 「カ ー ッカト スル ー ワ。

(酒を飲んだから、かっかするよ。)

II 皮膚の感覚

「ワ ー クワク(多)、「ビ ー リビリ(少)、「ビ ー リッピリ、

「ク ー シャクシャ、「ク ー シャト(弱)、「ズ ー キン「ズ ー キン(強)、

「ベ ー チャベチャ、「ベ ー ッチャベチャ、ガ「サ ー ガサ、ツ「ル ー

ツル

【説明】

日焼けで「ひりひり」する場合、「ワ ー クワク、「ビ ー リビリ、「ビ ー リッピリの形式がある。「ク ー シャトは、急激に痛くなる時の表現で、傷にあたった時の痛さや、火傷や針が刺さった時の痛さをいう場合に用いられる。共通語の「ちくちく」に対応するか。「ズ ー キン「ズ ー キンは、自然談話では、「ズ ー キン「ズ ー キン「ズ ー キン「ズ ー キンというように繰り返されることが多い。「ベ ー チャベチャは汗が「べたべた」する時、「がさがさ」は肌が乾燥した時、ツ「ル ー ツルは、肌が「すべすべ」している状態をいう。

- ナ「ン ー ト 「ヒ ー ニ ヤ ー ケタラ 「ワ ー クワク「スル ナ ー

ー。  
(まあ何と、日に焼ければ『ワクワクスル』って言うねえ。)

- ク「シャ ー ット 「イ ー タイ ン カ「ナ ー。

(ちくちく痛いのかなあ。)

- セナカ 「モー ー ナ「ン ー カ ハイッ「ト ー ルカシテ 「ク ー  
シャクシャ 「スル ナ ー。

(背中にもう何か入っているのか、ちくちくするねえ。)

- 「アレ ー モ ナニ「ヤ ー デ 「ヤケ ー ド シ ー タラ 「ズ ー ッキン  
ン「ズ ー ッキン「ズ ー ッキン「ズ ー ッキン「スル ー デ。

(あれも何だよ、火傷したら、ずきんずきんとするよ。)

〔項目に関するコメント〕

当地方の特色ある表現としては、「ワ ー クワク、「ク ー シャクシャを上げることができ

る。「ひりひり」と対応する「ピリピリ」よりもこの形式が多用される。また、「クシャクシャ」は、目がちかちかする場合にも用いられたり〔3-3. 目の項目参照〕、「クシャット」といった形式が派生している点からも、「ちくちく」に対応する形式としてよく用いられているといえる。

### Ⅲ 頭部の感覚

#### 3-1. 頭

ズキズキ、「ガンガン」、「フラフラ

##### 【説明】

ほぼ共通語と同形が用いられる。前二者は頭痛の状態についていう。

○ 「ズキズキ スル」 「ヨロー。

(ずきずきするよ。)

○ タッチクラミ 「スル」 ワ。「フラフラ スル」 ヨロー。

(立ちくらみがするよ。頭がふらふらするよ。)

#### 3-2. 顔面

「カッカ

##### 【説明】

共通語と同じ形式。

○ 「アリア」 「メンドシ」 「ヨロー。「カッカ スル。

(ああ、恥ずかしいよ。かっかする。)

#### 3-3. 目

「クシャクシャ」、「ショボショボ」、「コロコロ、

「コロコロ」 「コロコロ」

##### 【説明】

目がちくちくする場合、「クシャクシャスル」という。「コロコロ」は、目にゴミが入ったときの表現。

○ (目が) 「クシャクシャ」 「イタイ」 「ヨロー。

(ちくちく痛いよ。)

○ (目に煙がしみると) メー 「ショボショボ」 「センナ」 ラン  
ワ 「ナー。

(目がしょぼしょぼしなければならぬわねえ。)

目にゴミが入った場合の「コロコロ」は、繰り返される時もある。

○ (目にゴミが入ると) ンー 「ソラ」 モー 「コロコロ」 「コロ  
コロ」 「スル」 ワ。

(うん、そりゃもう、『ころころする』よ。)

#### 3-4. 耳

ツーン、ツーン、「ガンガン」、「ガーン、ジクジク

##### 【説明】

強い音を感じた時、共通語の『びーんと』に対応して、耳が「ツーン」 スルという。また、耳に水が入った時は、「ザーザースルと

いう。耳垢で湿った状態は、ジュ「ク」ジュク。

○ 「ミ」ミ バー「ン」ト 「オ」ト シ「タ」ラ ツー「ン」ト  
「スル」ン 「チャウ」ケ。

(耳にばーんという音がすれば「つーんとする」のとちがうか。)

### 3-5. 鼻

「ム」ズムズ、「ツーン」ト

#### 【説明】

共通語形の「むずむず」、「つーんと」(わさびなど)に対応する表現形式である。

○ 「ハナ」コソバイ ナー。「ム」ズムズ 「スル」ワ。

(鼻がくすぐったいねえ。むずむずするよ。)

○ アー 「ワ」サビ キ「ツ」インデ 「ハナ」ツーン「ト」 「スル」ワ。

(ああ、わさびがきついので、鼻がつーんとするよ。)

### 3-6. 口

(口全体)

ヌル「ヌ」ル、トロー「ン」ト

#### 【説明】

特徴的なのは、甘さに対する表現である。

○ (納豆を食べたら)ヌル「ヌ」ル 「スル」ヤ。

(ぬるぬるするよ。)

○ (チョコレートを食べたら)トロー「ン」ト 「スル」デ。

(「トローントスル」よ。)

(歯)

「ガ」チガチ、「ズ」ッキン「ズ」ッキン

#### 【説明】

共通語の「がちがち」に対応する形式[1-2. 寒さの項を参照]である。「ズ」ッキズッキは、歯が痛い時の表現。

○ 「ハ」ー 「イ」タイ 「ヨ」ー。「ズ」ッキン「ズ」ッキン  
「スル」ヨ」ー。

(歯が痛いよ。ずきずきするよ。)

(舌)

クワ「ー」ト

#### 【説明】

共通語「ひりひり」、「びりびり」等の使用は認められない。これらに対応するのがクワ「ー」トである。

○ 「アンマリ」カレー 「カ」ラインデ クワ「ー」ト 「スル」ワ。

(あんまりカレーが辛いのでひりひりするよ。)

3-7 喉 カラカ「ラ、カ「サ」カサ

【説明】

喉が渴いた時カラカ「ラ、空気が乾燥している場合は、カ「サ」カサが使用される。

○ ノ「ソ」カ「サ」カサ 「スル」ワ。

(喉がかさかさするよ。)

〔項目に関するコメント〕

当地の特徴的な形式としては、「ク」シャクシャ(目)・ツ「ン」ト(耳)・クワ「ー」ト等である。「ク」シャクシャは、皮膚がちくちくする場合に用いられ、「クシャ」ットという形式があることも既にみた。舌の感覚のクワ「ー」トも、皮膚がひりひりする意味のフ「ク」ワクスル〔II 皮膚の感覚参照〕と関連があるものと思われる。耳のツ「ン」トは、鼻の感覚の「ツ」ン「ト」とは、いわば同音類義語で、アクセントによってその使い分けがなされている。

膈体の感覚

4-1 肩 キュ「ー」ト

【説明】

キュ「ー」トが最も多用される形式。

○ カタ「ガ」 キュ「ー」ト 「ナ」ー 「クルシ」ー ワ。

(肩が〔凝って〕きゅうとねえ、苦しいよ。)

4-2 胸 ド「キ」ドク、ド「ク」ドク、キュ「ー」ット、「ム」カムカ

【説明】

ほとんど共通語の枠組みと同じとしてよい。ド「キ」ドクに対して「ド」クドクは、当地の形式である。

○ 「ド」クドクワ シンドーカナン「ド」ヤット 「ド」クドク スルケド 「ナ」ー。

(「ドクドク」という言い方は、心臓かなんかだったら、「ドクドクスル」けどねえ。)

4-3 腹

(空腹) 「グ」ーット

(満腹) ボ「テ」ボテ、バンバ「ン」

【説明】

満腹時はバンバ「ン」、ボ「テ」ボテはお茶を飲み過ぎた時。

○ 「ハ」ラ ハ「ッ」テ バンバ「ン」ヤ。

(腹がはってばんばんだ。)

(腹下し) 「ゴ」ロゴロ、「ゴ」ロゴロ「ゴ」ロゴロ

【説明】

腹の鳴る音だが、「ゴロゴロ」を重ねる場合もある。

4-4 胃 キュ「ー」ト

【説明】

肩こりの場合と同じ形式が用いられる。

- 「イガ スツナ」イ ワ。キュ「ー」ト 「イ」タイ ワ。  
(胃が苦しいよ。きゅっと痛いよ。)

4-5 尻 「ム」ズムズ

【説明】

居心地が悪いとき。

- (お尻が) 「ム」ズムズ スル ワ。  
(むずむずするよ。)

〔項目に関するコメント〕

ここでは、共通語と同形のオノマトベが多いが、心臓がドクドクスル等の在地的なものもある。肩、胸、胃等のキュ「ー」トはそれぞれ「締めつけられる痛み」をいったもの。

V 手足の感覚

(手) 「ブルブル、ブルブル」ブルブル

【説明】

「ブルブル」を重ねて言うこともある。

- 「ブルブル」ブルブル 「フル」トル ワ。「ブルブル」  
「フル」テ。  
(ふるふるふるふる震っているよ。ふるふる震うよ。)

(足) 「ガ」クガク

【説明】

足ががくがくするという場合に、「足が笑う」ともいう。

- 「ア」シガ ワ」ロテ 「ガ」クガク 「スル。  
([足が笑って]がくがくする。)

(その他) 「ヌ」ルヌル、ヌ「ル」ット

【説明】

足に触れた時の感触。共通語と同じ。

(首) ボキ「ン

【説明】

骨が折れる時に鳴る音。